

民主青年新聞

●ホームページ www.dylj.or.jp ●Eメール minsin@dylj.or.jp

見どころ

ページをめくると世界が広がる (6、7面)

「道徳」中学校教科書のねらいと危険性 (10、11面)

次号は8月27日付号になります

ヤングケアラー



▶都内の介護施設(本文と写真は関係ありません)

青年が介護に直面する時

介護制度は、病気やけがで自立が困難な利用者の生活を支える欠かせないものです。しかし、制度から漏れて適切な支援が受けられない人、家族だけで介護をせざるを得ない人が少なくありません。介護を経験している青年(ヤングケアラー)の実態から、尊厳が保障される介護の実現に向けて何が求められているかを考えます。(文中は一部仮名)

募る介護への不安

渋谷の街頭で「介護についてどう考えているか」を取材しました。取材に応えた会社員の高井隼人さん(24)は、「将来は兄弟で分担して親の面倒を見た」と言います。高井さんは介護の必要性について「介護は支援を受ける人も、支える人も苦労しているイメージ。少子高齢化が進み、高齢者を支えることが社会に求められている」と話します。

在宅介護は限界ある

木下桃さん(大学2年)は、「将来、親の世話自分が見るのがなと漠然と思っている」と話します。同時に、「支援がなかなか受けられない印象がある。仕事を続けながらの介護は大変そう」と、仕事と介護の両立への不安を口にします。「自分の生活もあるの、仕事はなるべく辞めずに介護をしたい」

青年の介護への不安の背景には、安倍政権が社会保障を削減し続けてきたこと。祖母は岡本さんが小



▲入浴を補助する昇降機。手すりには事故防止のチャイムを設置している(岡本さん提供写真)

(2面につづく)